



BS11

平成30年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年7月4日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長(氏名) 齋藤 知久
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経営戦略局長(氏名) 平山 直樹 (TEL) 03(3518)1900
 四半期報告書提出予定日 平成30年7月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第3四半期の連結業績(平成29年9月1日～平成30年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第3四半期	9,195	—	2,064	—	2,062	—	1,400	—
29年8月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年8月期第3四半期 1,400百万円(—%) 29年8月期第3四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第3四半期	78.69	78.68
29年8月期第3四半期	—	—

(注) 当社は、平成30年8月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成30年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率並びに平成29年8月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第3四半期	18,652	16,522	88.6
29年8月期	—	—	—

(参考) 自己資本 30年8月期第3四半期 16,517百万円 29年8月期 —百万円

(注) 当社は、平成30年8月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年8月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	18.00	18.00
30年8月期	—	0.00	—	—	—
30年8月期(予想)	—	—	—	19.00	19.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の連結業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,000	—	2,240	—	2,245	—	1,545	—	86.78

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、平成30年8月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(注) 特定子会社の異動には該当いたしません。が、株式会社理論社及び株式会社国土社の株式を取得したことに伴い、第2四半期連結会計期間より両社を連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年8月期3Q	17,802,832株	29年8月期	17,802,832株
② 期末自己株式数	30年8月期3Q	134株	29年8月期	134株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年8月期3Q	17,802,698株	29年8月期3Q	17,802,731株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益及び雇用・所得環境の改善が続くなか、個人消費の持ち直しなどもあり、景気は穏やかな回復基調となりました。しかしながら、米国の政策動向や近隣の地政学的リスク等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の75.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で1.3%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で2.9%増と堅調に推移しております（「2017日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで 人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

平成29年10月の番組改編では、タレントの島崎和歌子さんが司会を務め、豪華なゲスト歌手が視聴者のリクエストで昭和の名曲を歌い上げる『あなたが出会った 昭和の名曲』の放送時間を視聴者の皆様のニーズに応じて、毎週2時間に拡大いたしました。

平成30年4月の番組改編では、「本格思考・本物指向」をキーワードに、良質な番組制作による視聴世帯数の増加を目的として、月曜日から金曜日までのゴールデンタイムの番組を2時間枠に拡大するなど、今までにない番組編成にいたしました。

新番組では、日本人になじみの薄い国境をテーマに、世界中のあらゆる国と国との間に生きる人々の様々な人生を描き出す国境エンターテインメント『世界の国境を歩いてみたら・・・』、世界最大級のドキュメンタリーチャンネル「ディスカバリーチャンネル」から、人気作品を厳選したBS11オリジナル番組『ディスカバリーチャンネル傑作選 未知の映像博物館』、日本全国にあるスポーツの名門や強豪といった「チーム」に焦点をあて、強いチームへと作り上げる手法を解き明かす新感覚スポーツ番組『ザ・チーム 勝利への方程式』の放送を開始いたしました。

リニューアル番組として、『報道ライブ インサイドOUT』では、メインキャスターにジャーナリストとして活躍する岩田公雄さんを迎え、国内外の政治・経済を中心に分かりやすく、よりジャーナリスティックにお届けする報道番組として生まれ変わりました。『アニゲー☆イレブン!』では人気急上昇中の声優、Lynn（リン）さんを2代目司会者に迎え、番組内容を更に充実させて放送いたしております。

さらに、特別番組として、バスケットボールにおける世界最高峰のプロリーグNBAのプレーオフをファイナルまでお届けする『NBAバスケットボールプレーオフ中継2017-18』、また有田焼の人間国宝・井上萬二さんの特別番組第3弾として高画質4K-HDRで初めて撮影し、フルHDに変換したドキュメンタリー番組『有田焼・白磁 人間国宝 井上萬二～三代に伝承される技と美～』を歌舞伎俳優の松本幸四郎さんのナレーションで放送いたしました。

このほか、ローカル局とのコラボレーション施策として、平成30年3月には石川テレビと『すさんぼ～声優さんが巡る金沢カワイイ散歩～』、平成30年4月にはKBS京都と『京都夜桜生中継2018 春らんまん、大覚寺 花の調べ』、テレビ大分とはフォークシンガーの南こうせつさんがナレーションを務める『大分国東半島 六郷満山1300年』を共同製作し放送いたしました。

アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』においては、製作委員会へ出資した『デビルズライン』、『多田くんは恋をしない』、『こみっくがーず』を放送したほか、約40タイトルのアニメ番組を放送いたしました。

視聴者のニーズを捉えた良質な番組制作や、これまでとは異なる番組編成等が、売上増加に寄与いたしました。

費用面につきましては、引き続き番組関連費用等の効率的なコントロールに努めながら、番組宣伝のための施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を実施したほか、首都圏主要駅への看板掲出やラジオCM、ローカル局でのテレビCMなど、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を戦略的且つ効果的に実施いたしました。

なお、当社は平成30年1月に、事業の拡大及び新たなビジネス展開を企図し、長い歴史を持つ児童書出版の老舗企業であり、絵本、読み物、学習物といった児童書に特化、数多くの優良コンテンツと愛読者を擁している株式会社理論社及び株式会社国土社の全株式を取得し子会社化いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 9,195,067千円となりました。営業利益は 2,064,133千円、

経常利益は 2,062,289千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1,400,890千円となりました。

なお、当社は、第2四半期連結会計期間における株式会社理論社及び株式会社国土社の子会社化に伴い、第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。また、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、18,652,212千円となりました。流動資産の主な内訳は、現金及び預金が 8,978,188千円、固定資産の主な内訳は、土地が 4,034,756千円、建物及び構築物（純額）が 2,428,881千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、2,129,581千円となりました。主な内訳は、買掛金が 606,386千円、流動負債のその他が 618,007千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、16,522,630千円となりました。主な内訳は、資本金が 4,183,198千円、資本剰余金が 3,516,989千円、利益剰余金が 8,817,424千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、第2四半期連結会計期間において株式会社理論社及び株式会社国土社を子会社化したことに伴い、平成30年3月30日付で、通期連結業績予想を公表いたしました。

連結業績予想につきましては、平成30年3月30日公表の「個別業績予想の修正及び連結決算開始に伴う業績予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

		当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		8,978,188
受取手形及び売掛金		2,258,117
たな卸資産		331,832
その他		110,927
貸倒引当金		△1,170
流動資産合計		11,677,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)		2,428,881
土地		4,034,756
その他(純額)		247,365
有形固定資産合計		6,711,003
無形固定資産		17,645
投資その他の資産		245,668
固定資産合計		6,974,316
資産合計		18,652,212
負債の部		
流動負債		
買掛金		606,386
短期借入金		480,000
1年内返済予定の長期借入金		11,100
未払法人税等		294,385
返品調整引当金		20,508
その他		618,007
流動負債合計		2,030,389
固定負債		
長期借入金		16,700
退職給付に係る負債		58,099
その他		24,393
固定負債合計		99,192
負債合計		2,129,581

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成30年5月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	4,183,198
資本剰余金	3,516,989
利益剰余金	8,817,424
自己株式	△139
株主資本合計	16,517,473
新株予約権	5,157
純資産合計	16,522,630
負債純資産合計	18,652,212

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
売上高	9,195,067
売上原価	4,236,836
売上総利益	4,958,231
販売費及び一般管理費	2,894,098
営業利益	2,064,133
営業外収益	
受取利息	40
その他	2,572
営業外収益合計	2,613
営業外費用	
支払利息	1,334
その他	3,123
営業外費用合計	4,457
経常利益	2,062,289
税金等調整前四半期純利益	2,062,289
法人税、住民税及び事業税	647,515
法人税等調整額	13,882
法人税等合計	661,398
四半期純利益	1,400,890
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,400,890

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	1,400,890
四半期包括利益	1,400,890
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,400,890
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。